


共通テスト「こなれた」 2次試験出願、どうする？ 駿台部長に聞く

有料記事

聞き手・編集委員 宮坂麻子 2024年1月14日 21時00分



駿台予備学校入試情報室の石原賢一部長=東京都 

大学入学共通テストの本試験が終わり、国公立2次試験や私立大入試へと、大学受験が本格化していく。共通テストを終えた受験生は、今年は何に気をつけて、どう動けばいいのか。被災した受験生へのアドバイスは——。1995年1月の阪神・淡路大震災の時、被災した受験生を指導した、駿台予備学校入試情報室の石原賢一部長に聞いた。

今年の共通テストは易化？ 気をつけたい今後

——導入4年目の共通テストの本試験が終わりました。どうみますか？

まだ終了したばかりなので、各科目の十分な分析はできていないですが……、旧課程対応の共通テストの集大成らしく、驚くような出題形式も難問もなく、全体的に大学入試センター試験にも近い標準的な出題だった印象です。複数資料を読み解くなど、共通テストらしい問題も随分こなれてきて、共通テスト対策を続けてきた受験生は解きやすく感じたのではないのでしょうか。

難易度が上がったのは、英語リーディング。語数も増え、内容がややこしい大問があり、昨年も低かった平均点は、さらに少し下がる予想です。一方で、特に国語はかなり易化し、他の科目も昨年と同程度が多い。

記事後半には、阪神・淡路大震災の時、受験生を指導した経験から、被災した受験生へのアドバイスがあります。

難関国立大を狙う上位層は、高得点でダンゴ状態になることが予想されます。特に文系はその傾向が強い。2次試験の配点が大きい難関大や医学部志望の人は、例年以上に「共通テストのアドバンテージはない。ここからの勝負」と思って、2次試験に備えましょう。

逆に、2次試験の配点が小さく、共通テスト重視の大学の受験生は、合否ラインの判断が難しいので、今後の分析をよく見て、先生とよく相談し、慎重に判断してください。国公立大なら後期日程で抑えになるところに出願するか、確実な私立を一つ入れるか。

共通テストで失敗した科目のある人は、志願先をもう一度考えてください。例えば、その科目の配点が少ない大学を探したり、後期でそうした大学を受けたりする手もあるでしょう。

また、最近では難関私立大がかなり易くなってきていますから、むしろ私立大の出願を増やして可能性を広げる方法もあります。早く進学先を決めたい受験生が多いので、特に後期日程や3月遅めの入試日程の私立は狙い目です。最後まであきらめないで受け続けると、案外合格がもらえます。

——来年の共通テストは新学習指導要領の科目に再編され、教科「情報」も加わります。これまで新課程の前年は「浪人回避」で安全志向が強い傾向がありました。

来年からの新課程対応入試、浪人生は不利ではない？

今回はそれほど臆病になる必要はありません。今年は高3生の人数が少なく、共通テストの志願者も50万人を切りました。総合型や学校推薦型選抜といった、いわゆる「年内入試」の増加で、共通テストは受験しても2次試験は受けない受験生も多くなります。

新課程は、地理歴史・公民や数学など、出題範囲が広がる科目があります。一方で、浪人したとしても、旧課程向けの入試はこれまで通りの出題範囲で、点差が大きかった時に行われる得点調整を除けば、既卒生が不利になる要素はあまりありません。過去20年ほどの中でも浪人に有利になると予想しています。

だからといって無謀な挑戦をする必要はありませんが、「来年は新課程だから」と気にする必要もありません。結果を冷静に判断し、早めに志望校を決め、過去問演習をしっかりとすることが鍵になるでしょう。

——「年内入試」でも、共通テストで一定の点数を取ることを課し、合否に用いている大学があります。

そこは注意が必要です。自己採点では、実際の点数とくい違いが出るので、示された基準を超えていると思っても気を緩めず、一般選抜への備えも忘れないでください。これまでも共通テストで不合格になった人は少なくありません。

——今年には能登半島地震で被災した受験生もいます。阪神・淡路大震災の経験からアドバイスはありますか。

「困難に直面した時に出る底力はすごい」

阪神・淡路大震災の時、私は予備校の大阪市内の校舎の校舎長をしていました。大学入試センター試験(現共通テスト)の2日後の早朝に地震が起き、前日は休日だったので高校での自己採点もできていない生徒も多くいました。

「とにかく勉強できる場を」と校舎を開放しました。公共交通機関もしばらく動かなかったので、貸しビルを探して自習室を設けると、生徒たちは次々集まってきました。みんなで励ましあって受験を続けました。

能登半島地震で被災した受験生に伝えたいのは、「困難に直面した時に出る底力はすごい」ということ。親族を亡くしたある生徒は「絶対に医者になる」と頑張り、国立大医学部に合格しました。両親を亡くしても勉強し続け、志望校に進学した子もいます。全体の合格実績も例年と比べて悪くありませんでした。

能登半島地震で被災した受験生も、家族のこと、家の再建、両親の仕事など、不安なことがいっぱいあると思います。でも大人たちは様々な方法で支援してくれます。

まずは、高校の先生たちに相談して勉強する場を確保し、次の入試に備えてください。阪神・淡路大震災では、被災した受験生のために4月まで特例入試をした大学もありました。今回も柔軟な方法を取るかもしれません。志望校に相談してみてください。

各大学からは、受験料や入学金、授業料の減免などの措置が発表されています。これからもっと増えるでしょう。被災した学生向けの奨学金や救済措置もあります。共通テストが受けられなかった受験生には追試もある。

ここで、あきらめないで前へ進んでください。(聞き手・編集委員 宮坂麻子)



大学入学共通テスト

大学入学共通テスト 問題・解答・分析はこちら [→](#)

最新ニュース、時間割、受験生応援企画などをお届け。試験当日は問題と解答を速報します。[もっと見る]

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.